

ナス (ナス科)												
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
植えつけ				収穫								

ナスはトマトやキュウリにくらべ失敗がなく、しかも4ヵ月近くも収穫できて家庭では便利な野菜です。

ナスは地域的に好みがあり、各地に独特の品種があります。広島以西の九州地方では長ナスが一般的です。その他に、丸ナス形や長卵形も栽培できます。

品 種

長ナスは晩生で暑さに強く、丸ナスは極早生で暑さに弱く、長卵形ナスは早生または中生です。

〔長ナス〕 黒竜、黒陽、久留米長、改良博多長、長者、長岡長

〔丸ナス〕 早生大丸、巾着

〔長卵形ナス〕 千両2号、万両、王者、みず茄子、初駒、黒駒、はやぶさ

栽培ポイント

ナスは多肥を好み、肥沃な適湿のある畑でよくできます。ただし、連作をすると、半枯れ病などの病害が出てうまく育ちませんから、ナス科のものは4～5年の輪作をするように注意します。接ぎ木苗（赤ナスなどに接ぎ木した苗）は少し高価ですが、半枯れ病にかかりませんから、入手できればそのほうが栽培が楽で、収量も多くなります。

苗のよしあしが、その後の生育に影響しますから、早々と小さな苗を買わずに植えつけ前にしっかりしたよい苗を入手することもたいせつです。

●**植えつけ**● 植えつけは、晩霜のおそれなくなった5月上～中旬に行いますが、その7～10日前に元肥えを入れて、畝を作っておきます。元肥えは、畝の中央の溝に思い切って多く施します。

植えつけの前日に植え穴を浅く掘り、液肥500倍液をたっぷり植え穴に施しておきます。風の無い日の午前中に植えつけますが、粘質土のではナスの根土が1/3くらい地表に出る程度の浅植えにします。深植えすると活着が遅れ、あとの生育がよくならないからです。

前日に、植え穴に十分液肥をやっておき、植えつけた日は水をやりません。浅植えした苗は翌日からは午前中に水やりしますが、それ以外は乾くようなら水やりします。午後に水やりすると地温が下がり、よくありません。

●**仕立て方**● 苗は7～10日で活着し、地上部も生育し、8～9節に1番花が咲き、8～10日あとに2節おいて2番花がつけます。このころに整枝をして、主枝（1番花のついた枝）と側枝2本の、3本を伸ばします。それより下のほうの側枝はとり除きますが、一度とつてもしばしば出てきますから、見つけしだい早めに、芽のうちにとり除きます。接ぎ木苗では、台木からも何回も芽が出てきます。放置しておくと、肝心の接いだ穂のナスが弱りますから、見つけしだい早めにとります。

6月中旬ごろに本支柱を立て、梅雨入り前に敷きわらをしてやります。

●**管理**● 肥料切れになると、花は咲いても実がつかなくなりますから、6月中旬から追肥を施します。

1番果や2番果が大きくなると木が弱りますので、小さいうちに早めに収穫しましょう。

梅雨明けとともに高温乾燥期になりますので、敷きわらをさらに厚くしてやります。3cm以上の厚さに敷きわらをすると地温が2～3度下がり、青枯れ病などの発生も少なくなります。

7月中旬ごろになると木も茂り、徒長枝が多くなって、光線の当たりや通風が悪くなりますので、内側のフトコロ枝を切り捨てます。

7月下旬になるとナスの木も衰え、病害虫も多く発生し、暑さと乾燥のために生育が鈍ってきます。このような場合、切り返し剪定（更新剪定ともいう）といって主枝、側枝を短く切りつめ、7月下旬～8月中旬まで木を休ませて、秋に再び品質のよい秋ナスをとるのもよい方法です。強く切ると長く（30日ぐらい）休み、弱く切ると20日ぐらい休んで、新しい枝に実がなります。

剪定後は追肥をやり、敷きわらを厚くします。

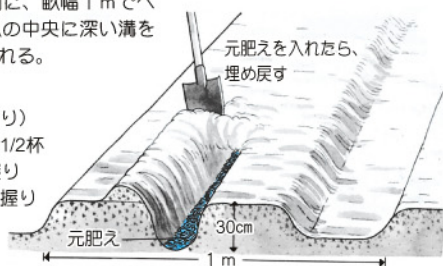
栄 養

ビタミンAはほとんどなく、Cもわずかです。

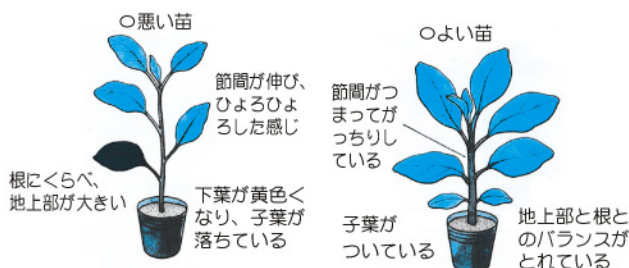
1 畑の準備

あらかじめ苦土石灰（1㎡あたり2握り）をすき込んでおいた畑に、植えつけの10日ほど前に、畝幅1mでベッド畝を作る。畝の中央に深い溝を掘り、元肥えを入れる。

元肥え（1㎡あたり）
 堆肥 バケツ1/2杯
 鶏糞 13握り
 化成肥料 2握り

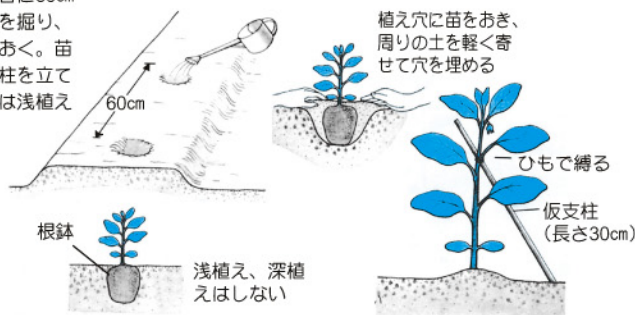


2 よい苗の選び方



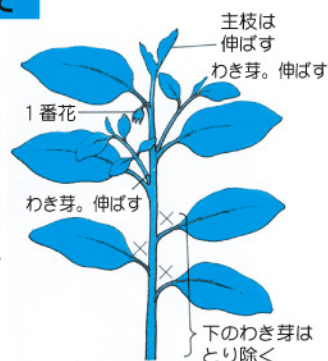
3 植えつけ

植えつけ前日に60cm間隔に植え穴を掘り、液肥をやっておく。苗を植えて仮支柱を立てる。粘質土では浅植えをする。



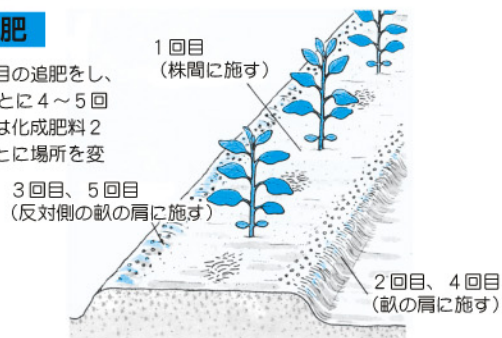
4 3本仕立て

葉のつけ根から出るわき芽は全部伸ばさずに、1番花(果)がついたすぐ下から出る、勢いのよい2本のわき芽と主枝の計3本だけを伸ばし、それより下のわき芽は、元からつみとる。



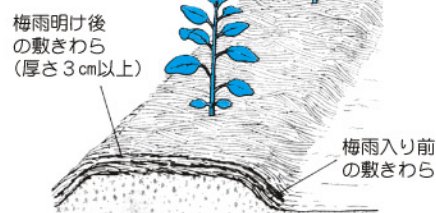
5 追肥

6月中旬に1回目の追肥をし、その後20~25日ごとに4~5回追肥を施す。追肥は化成肥料2握り弱を、1回ごとに場所を変えて施す。



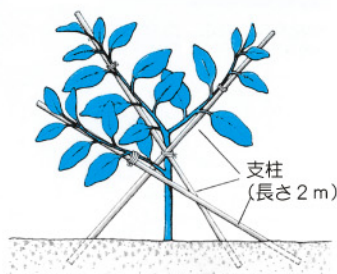
6 敷きわら

雨のはね返りによる病害や、夏の乾燥と地温の上昇を防ぐために畝にわらを敷く。



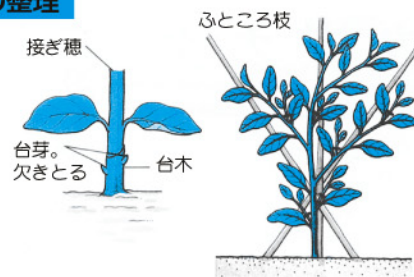
7 本支柱立て

実がつくと、重みで枝がたれ、地面についてしまう。6月にしっかりした支柱を立てて、3本の枝を縛ってやる。接ぎ木苗は丈が高くなるので、長さ1.8mの支柱を用いる。



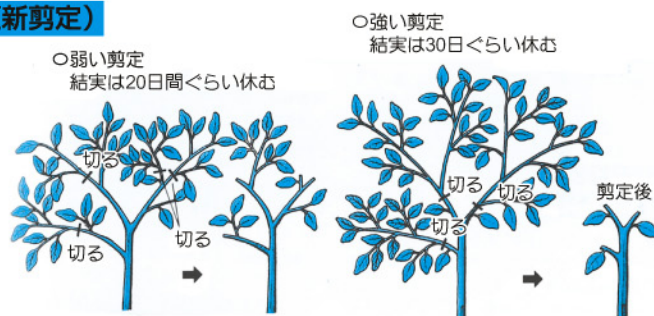
8 ふところ枝の整理

7月中旬ごろになると、木が茂って、内部の日当たりや風通しが悪くなるので、枝を整理する。下部のわき芽、台芽のつみとりも、引き続き行う。



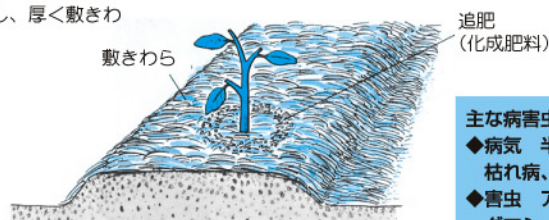
9 切り返し剪定(更新剪定)

7月下旬に、主枝と2本のわき枝をそれぞれ短く切り返し、新しい枝に更新する。この新しい枝によい秋ナスができる。



10 剪定後の追肥、敷きわら

元気を回復し、新芽が順調に伸びるよう、剪定後、畝全体に追肥を施し、厚く敷きわらをする。



主な病害虫

- ◆病気 半枯れ病、半身萎凋病、青枯れ病、褐色丸星病、疫病
- ◆害虫 アブラムシ、テントウムシダマシ、アカダニ